

ウジョウトンボ、モノサシトンボが獲物を待つ。また、ヒシヤガガブタの葉上には、セスジイトンボやクロイトンボ、が縄張りを作る。

また、池の北側の森や草地が、未熟虫の時期を過ごす絶好の場所になっている。セスジイトンボ、クロイトンボ、モノサシトンボ、コシアキトンボの多くは、未熟虫の時期に過し、やがて林上を飛ぶ。しかし、殺し屋シオヤアブも結構多い。

更にまた、池が大きいと、大きな池を好むオオヤマトンボが住み付く。

以上、紹介したトンボはすべて普通種であり、生態もありふれたものだが、年月日のデータと環境についての記載がかなり詳しいので、例えば10年後に同様の観察をして比較して見れば、環境とファウナの推移がよくわかるのではないかと思う。

なお、最後になりましたが、トンボの同定と生態について、いろいろとご教示いただきました関西トンボ談話会の井上 清氏に厚く御礼申し上げます。

IV 参考文献

1. 宝塚のトンぼ 宝塚市教育委員会、1982
2. 近畿のトンボ 関西トンボ談話会、1984
3. 原色昆虫大図鑑Ⅲ 北隆館
4. 市城図 宝塚市

カトリヤンマの産卵観察例

田 中 稔

カトリヤンマ *Gynacantha japonica* BARTENEF は、西宮市では最も普通のヤンマであるが、私は、今回初めて産卵を観察したのでその報告をする。

1986年9月7日の夕方5時半頃に、西宮市上ヶ原山田町の湿地の中のB湿地（本誌第14巻第1号、西宮市上ヶ原山田町のトンボ）を、犬と散歩がてらトンボの観察巡回中に足元より5～6匹のカトリヤンマが一斉にバサバサと飛び立ち地上1m位にホバーリングをした。5分程待ったがホバーリングを続けているため、10分程その場をはなれて戻ってみるとやはり産卵をしていた。湿地の水は完全に

なくなっており、わずかに湿った泥に静止した♀が羽をこきざみにふるわせながら尾端をあちこち探って5分程産卵をした。少し(10cm)歩いて産卵。又少し移動して産卵をくりかえしていた。当日の日没は18:17であった。

ウスバシロチョウの採集

堀 紳 二

1985年から86年にかけて、兵庫県播磨地方各地(瀬戸内海側)で、ウスバシロチョウを採集した。採集地が100ヶ所になったので報告する。産地ごとの変異等はまだ詳しく調べていないが、大きさや斑紋に微妙な違いがあるように思われる。雌に関しては、佐用川上流(千種川水系)で黒い個体の多い産地があった。夢前川水系の産地の雌もかなり黒化していた。逆に白い雌が多かったのは揖保川上流域であった。また市川水系の産地では黄色い雌が見られた。大きさに関しては、山崎町野々住原の高原で普通の高さの個体に混じって小さな個体がかかなり飛んでいたのは興味が深かった。

<採集地>

大河内町(市川水系)	川上、上小田
生野町(〃)	栃原
夢前町(夢前川水系)	小畑、寺河内、馬頭、坂根、我孫子、佐中、熊部、河原口
安富町(揖保川水系)	栃原、大河川上流、関
新宮町(〃)	麦子口、福原、田幸
〃(千種川水系)	下筋原、上筋原、二柏野
山崎町(揖保川水系)	上ノ上、野々住原、宮の元
〃(千種川水系)	土万、八重谷峠、大沢、小茅野
一宮町(揖保川水系)	河内福田、奥福地、福地白口、草木、下千町、阿舍利、溝谷、西公文和田、小原、志倉、靴屋、富士野、黒原奥組、深河谷、池垣内
波賀町(〃)	斉木前地、下水谷、日ノ原、赤西、音水、引原、平桑、石亀、戸倉、堀、道谷、若杉峠